

平成29年度 自己点検・評価報告書

平成30年3月31日現在

学校法人 原学園

専門学校 青山ファッションカレッジ

平成30年5月31日作成

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価	1	基準5 学生支援	21
基準1 教育理念・目的・育成人材像	2	5-16 就職等進路	22
1-1 理念・目的・育成人材像	3	5-17 中途退学への対応	23
基準2 学校運営	4	5-18 学生相談	24
2-2 運営方針	5	5-19 学生生活	25
2-3 事業計画	6	5-20 保護者との連携	26
2-4 運営組織	7	5-21 卒業生・社会人	27
2-5 人事・給与制度	8	基準6 教育環境	28
2-6 意思決定システム	9	6-22 施設・設備等	29
2-7 情報システム	10	6-23 学外実習、インターンシップ等	30
基準3 教育活動	11	6-24 防災・安全管理	31
3-8 目標の設定	12	基準7 学生の募集と受入れ	32
3-9 教育方法・評価等	13	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか	33
3-10 成績評価・単位認定等	14	7-26 入学選考	34
3-11 資格・免許の取得の指導体制	15	7-27 学納金	35
3-12 教員・教員組織	16	基準8 財務	36
基準4 学修成果	17	8-28 財務基盤	37
4-13 就職率	18	8-29 予算・収支計画	38
4-14 資格・免許の取得率	19	8-30 監査	39
4-15 卒業生の社会的評価	20	8-31 財務情報の公開	40

基準 9 法令等の遵守	41
9-32 関係法令、設置基準等の遵守	42
9-33 個人情報保護	43
9-34 学校評価.....	44
9-35 教育情報の公開.....	45
基準 10 社会貢献・地域貢献	46
10-36 社会貢献・地域貢献	47
10-37 ボランティア活動.....	48

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	平成 29 年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>『社会に出て通用する人材の育成』を目的とした、ファッション専門教育および人間教育を永続的に実施し、多くの有能な人材をファッション界に輩出することにより、社会に貢献すること。</p>	<p>学生の満足度向上を図ることを重点目標と位置づけ、授業内容・授業運営方法の見直しを行うとともに、インターンシップの拡充や、学生一人ひとりに対する適切な就職指導など、従前に引き続き、更なる教育の質の向上を推進する。</p>	<p>学生による授業評価調査の結果、授業満足度はおおかた良好な評価(満足傾向 72%・中庸傾向 17%・非満足傾向 11%)を得ているが、一部の授業科目に改善すべき事項が認められフィードバックを行った。全体的な授業満足度向上に向けては、時代のニーズに対応した授業科目の新設など、カリキュラム改善のための学則変更を実施するとともに、授業要項(シラバス)の改良を行い授業目的・到達目標の明確化を図った。また全学科において、インターンシップ等による実社会での職業体験を実施し、実践的な学習により知識・技術の向上が図られ、将来の職業選択をする上での有用性が認められた。就職希望者の 93%が内定を得ることができたが、一部、職種が希望通りとならないケースもあった。</p>	<p>少人数制の教育といえども、学生一人ひとり十人十色で、基礎学力・理解度・モチベーション等に大きな違いが認められる中、教育現場において、学生全員の満足度や伸長率を一律に高めることは難しく、どうしても差が生じる傾向にある。授業科目にもよるが、学生一人ひとりの到達レベルの設定を可変的なものとし、達成感を得やすい授業運営を行うことが肝要であり、そのための指導方法の考察・試行を、次年度以降に向けての継続検討課題とする。</p>

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念・目的・育成人材像は明確に定められており、その達成に向け特色ある教育活動が行われている。また、ファッション業界のニーズや社会のニーズを把握するための情報収集を定常的に行い、カリキュラムへの反映や将来構想の計画化を図るなど、柔軟な対応と同時にタイムリーな意思決定が行われている。</p>	<p>校長を中心に、理事・評議員・教職員・講師が情報を共有し、本校ならではの校風や特色を活かしつつ、時代の流れや業界・社会のニーズを踏まえ、機動的な組織対応を行うなど、柔軟性を重視した学校運営が行われている。</p>

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	理念・目的・育成人材像が定められていることは当然であり、学校運営の基本となるものと考えている。	明確に定めている。	特になし。	
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	本校はファッション・服飾分野に専門特化した単科校であり、業界ニーズに合わせた人材育成を目的とし、職域別に4つの学科を設置している。	4学科それぞれに、業界の人材ニーズに合わせたカリキュラムを構築している。	時代の変化に即応するため、管理者・教職員ともに情報収集を怠らず、重要性に応じて、次年度のカリキュラムに即刻反映させるなど、柔軟な対応を行うものとする。	
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	特色は学校の良さに通じるものであり、理念に次いで重要な要素と位置づけ、特色ある教育活動に取り組んでいる。	特色あるカリキュラムの構築や講師の選任を行っているほか、学生が学びやすい校風の維持に努めている。	管理者・教職員・講師が共通認識として、本校の特色を理解し、それぞれが特色を活かした業務運営に当たるものとする。	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	学校制度および業界動向の変動が激しい時代にあるため、将来を見据えつつ柔軟性を重視した学校運営を行っている。	収集した情報を教職員および理事会で共有し、校長のリーダーシップのもと、将来的な構想を練り、計画化に繋げている。	学校関係の協会や就職先企業との接触を密にし、教育分野およびファッション業界の動向把握に努めるものとする。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念・目的・育成人材像は明確に定められており、その達成に向け特色ある教育活動が行われている。また、ファッション業界のニーズや社会のニーズを把握するための情報収集を定期的に行い、カリキュラムへの反映や将来構想の計画化を図るなど、柔軟な対応と同時にタイムリーな意思決定が行われている。	校長を中心に、理事・評議員・教職員・講師が情報を共有し、本校ならではの校風や特色を活かしつつ、時代の流れや業界・社会のニーズを踏まえ、機動的な組織対応を行うなど、柔軟性を重視した学校運営が行われている。

最終更新日付

平成30年5月31日

記載責任者

江口 崇裕

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念を基本とし、その時々¹の社会情勢や環境を反映した業務運営方針及び事業計画を毎年策定し、PDCAサイクルにより1年毎にローリングを実施している。この業務運営方針が当該年度の行動指針となるものであり、教職員・講師に周知し、実際の業務運営に繋がるよう徹底するとともに、事業計画に沿った適切な学校運営を行っている。</p>	<p>年度末に開催する教職員・講師全体会議のほか、秋季に校長が行う個別ヒアリングや日常的な教職員ミーティングを通じて、業務運営方針の周知徹底を図るとともに、進捗状況の管理を行っている。また、事業計画は業務運営方針とリンクするものであるが、同時に資金収支等の予算を計画するものでもあり、常に長期安定的な学校経営を重視した計画立案を行っている。</p>

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	業務運営の基本となるのは理念であり、その方針策定においても、理念をベースに構築されなくてはならない。	毎年、事業計画を立案し、業務運営方針を定めている。その際、基本となるのが理念であるのは当然のことである。	特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念を基本とし、その時々々の社会情勢や環境を反映した業務運営方針を毎年策定し、PDCAサイクルにより1年毎にローリングを実施している。この業務運営方針が当該年度の行動指針となるものであり、教職員・講師に周知し、実際の業務運営に繋がるよう徹底している。	年度末に開催する教職員・講師全体会議のほか、秋季に校長が行う個別ヒアリングや日常的な教職員ミーティングを通じて、業務運営方針の周知徹底を図るとともに、進捗状況の管理を行っている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	業務運営方針と併せて、具体的な行動指針となる事業計画を定めることは必要不可欠である。	毎年、業務運営方針策定と同時に、事業計画を定め、当該年度の事業運営の指針としている。	制度面で専門職大学や職業実践専門課程が確立され、自由度の高い従来の専門学校の重要性を再確認する必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念を基本とし、業務運営方針と併せて、その時々々の社会情勢や環境を反映した事業計画を毎年策定して、PDCAサイクルにより1年毎にローリングを実施し、事業計画に沿った適切な学校運営を行っている。	事業計画は、業務運営方針とリンクするものであるが、同時に資金収支等の予算を計画するものでもあり、常に長期安定的な学校経営を重視した計画立案を行っている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	法人として寄附行為に定めた事項を遵守し、適切な組織運営を行うことは必要不可欠である。	寄附行為に定められた役員、理事会、評議員会を置き、適切な組織運営を行っている。	特になし。	
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	小規模な学校であるが故、必要最小限のコンパクトな組織で、適正かつ機動的な組織運営を行うことを目標としている。	業務の効率性・機動性を重視した学校運営に必要な組織を整備し、担当者毎に事務分掌を定めている。	効率的かつコンパクトな組織としているため、人的余力が乏しく、繁忙期等は組織を横断して業務を補完するものとする。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人として寄附行為に定めた事項を遵守し、適切な組織運営を行うとともに、学校運営のための組織を整備し、適正かつ効率的・機動的な組織運営を行っている。	小規模な学校であるため、必要最小限のコンパクトな組織とし、業務の効率性・機動性を重視している。一方、業務繁忙期等は組織を横断して業務を補完しあう体制を敷いている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	就業規則及び教職員給与規程を整備し、それらに基づいた人事・給与の施策を実施・運用するものとする。	就業規則、教職員給与規程に基づき、適切な運営がなされている。	業務の特殊性、人的余力の問題から、産前産後休暇・育児休暇といった長期に亘る休暇取得中の代行者の確保が難しい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就業規則及び教職員給与規程を整備し、それらに基づいた人事・給与の施策を適切に実施・運用している。	業務の特殊性、人的余力の問題から、産前産後休暇・育児休暇といった長期に亘る休暇取得中の代行者の確保が難しい。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	校長・理事会・評議員会・教職員・講師が情報を共有し、機動的に組織対応を行う意思決定システムであることが肝要。	理事会、評議員会、教職員・講師全体会議のほか、講師ヒアリング、教職員ミーティングを通じ校長が調整・決裁を行う。	特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会、評議員会、年度末に開催する教職員・講師全体会議のほか、秋季に校長が行う個別講師ヒアリングや日常的な教職員ミーティング等を通じて、情報を共有し、状況を把握した上で、校長が関係者と意見調整を図り、機動的に決裁を行う。	小規模校であるが故、校長を中心に、理事・評議員・教職員・講師が常に情報を共有し、本校ならではの校風や特色を活かしつつ、時代の流れや業界・社会のニーズを踏まえ、機動的かつ迅速に組織対応を行えることは、本校の強みと言える。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	事務管理の観点から、情報システムにより合理化・省力化が図られる業務に関しシステム化を推進する。	大規模開発は行わず、必要業務についてのプログラムを作成または既製ソフトを導入し、業務効率化を図っている。	OS のレベルアップが進んでいく中で、利用中のプログラムが新 OS の下で安定稼働するよう対処を行うものとする。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事務管理の観点から、情報システムにより合理化・省力化が図られる業務に関しシステム化を推進する。小規模校でありデータ量が膨大ではないため、大規模システムの開発は行わず、個別業務のプログラミングおよび既製ソフトの導入により業務の効率化を図っている。	パソコンの進化とともに OS のレベルアップが繰り返される中で、現在利用中のプログラムが新 OS の下で安定的に稼働するよう、常に注視するとともに、必要に応じてプログラムの改定等を実施する。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念である「社会に出て通用する人材の育成」を基本とし、目標とする職業を明確にした上で、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得を目的とした教育課程編成・実施に努めている。</p> <p>各課程においては、授業科目毎に授業要項（シラバス）を設置し、授業内容や到達目標を示すことで、修業年限における教育到達レベルを明確にし、学生に周知するとともに、ホームページで入学対象者等の閲覧を可能にしている。</p> <p>また、時代の変化に合わせ、教育内容を見直すとともに、目標とする職業を明確にし、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得およびキャリア教育を重視した教育課程の編成を行っている。</p> <p>授業評価は毎年実施し、結果を全教員にフィードバックするとともに、次年度の授業計画に反映させ、授業内容・授業運営の改善を図っている。</p> <p>成績評価基準は、授業毎に公平かつ厳正な基準を設け、授業要項に明示し全学生に伝達するとともに、修了認定は年間総合成績を基に、学則の「卒業に必要な授業時数」を基準として適切に判定している。</p> <p>また、作品や習得した技術等の成果は、卒業・修了制作展やホームページを通じて外部に発表し、優秀者には表彰を実施している。</p> <p>資格取得に関しては、学科の特性に合わせ、学科毎に目標とする資格を定め、授業の一環として指導を行うほか、補習授業での対応や質疑による個別フォローを行うことにより、資格取得の向上に努めている。</p> <p>教員は、学科毎の特性を重視した教育に必要な組織を以って、クラス担当（担任）を配置するとともに、授業科目毎の担当教員を定め、専修学校設置基準第41条の資格・要件を備えた者を教員として確保している。</p> <p>また、教員の資質向上は、教育者としての人材育成および業界情報収集の観点から重要であり、適宜セミナー・講習会への参加を実施している。</p>	<p>教育課程は、時代の変化に合わせてタイムリーに修正していく必要があり、随時、業界関係者等から情報収集を行い教育課程に反映させるよう注力している。</p> <p>ただし、アパレル企業は会社毎に業務手法が異なるため、教育課程の編成に際し、特定の企業や個人の意見に偏ることなく、広範な情報収集を行い、的確な情報・意見を選別して、学校としての統一見解を示し、広範な企業・職種に就職ができるよう課程編成を行うとともにキャリア教育を実施している。</p> <p>また、インターンシップ（企業研修）を積極的に実施し、在学中に現場体験が行える体制を整備している。</p> <p>卒業・進級は、普通に授業に参加している学生に問題が生じることはないが、怠業等により、年間総合成績において僅かな要件不足で卒業・進級が不可となる学生に対しては、卒業・進級特別授業を行い不足していた要件を補うことで、卒業・進級できる機会を与えている。</p> <p>資格取得に関しては、ファッション業界の資格は国家資格でない為、受験を強制せず、学生本人の希望に合わせた形で取得できるように指導している。</p> <p>また、本校では、実務に即した実践的な教育を行うために実務家教員を多く配置している。ただし、仕事の都合で出校できないケースもあるため、予めバックアップ教員を定め、補完体制の整備に努めている。</p>

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	教育理念である「社会に出て通用する人材の育成」を基本とし、教育課程の編成方針、実施方針を定めている。	目標とする職業を明確にし、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得を目的とした教育課程編成・実施に努めている。	時代の変化に合わせて教育課程を修正する必要がある、随時、業界関係者等から情報収集を行い教育課程に反映させる。	
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	授業科目毎に授業要項を設置し、授業内容や習得目標を示すことで、修業年限における教育到達レベルを明確にしている。	年度始めに授業要項を学生に配布し、当該年次における教育到達レベルを明示するとともに、ホームページでも情報公開している。	授業科目によっては教育到達レベルの表現が難しい場合があるため、できる限り客観的に判断できる指標・表現方法を模索する必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念である「社会に出て通用する人材の育成」を基本とし、目標とする職業を明確にした上で、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得を目的とした教育課程編成・実施に努めている。各課程の授業科目毎に授業要項を設置し、授業内容や習得目標を示すことで、修業年限における教育到達レベルを明確にし、学生に周知するとともに、ホームページでも公開している。	教育課程は、時代の変化に合わせてタイムリーに修正していく必要がある、随時、業界関係者等から情報収集を行い教育課程に反映させるよう注力している。また、教育到達レベルの表現が難しい授業科目もあるため、できる限り客観的に判断できる指標・表現方法を模索することといたしたい。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	時代の変化に合わせて授業内容を見直し、教育目的・目標に沿った効果的な学習を行うための教育課程の編成を行う。	目標とする職業を明確にし、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得を目的とした教育課程の編成を行っている。	時代の変化が大きく、大幅な授業課程の修正を行う場合、教員の入替えが必要となり、雇用の対応が難しい。	
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	特定の企業や個人の意見に偏ることなく、広範な情報収集を行い、的確な情報・意見を選別して教育課程に反映させる。	就職先企業や業界で仕事をしている講師からのヒアリング、業界新聞等の情報を元に分析を行い、教育課程に反映。	アパレル企業は会社毎に業務手法が異なるため、各企業の考え方を総合して、学校としての統一見解を示す必要がある。	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	業界の仕事を理解し、自分に合ったキャリア形成を目指して就職に臨むことが重要で、そのためのキャリア教育を重視。	「就職ガイダンス」や「コミュニケーションマナー」のほか、個別指導・相談で、きめ細かいキャリア教育を実施。	新卒での求人が極めて少ない職種を目指す学生への指導が難しく、時として就職しやすい職種への誘導も必要となる。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	学生の授業満足度を高めることは最重要事項であり、そのために授業評価を実施し、問題点を把握し、授業内容・授業運営等の改善を図る。	毎年、全授業の授業評価を実施し、結果を全教員にフィードバックしている。問題点があれば、即刻改善するとともに、次年度の授業計画に反映させる。	学生の理解度やモチベーションに差があるため、授業難易度の設定が難しく、学生全員の授業満足度を高めることに限界があるように思われる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
時代の変化に合わせて授業内容を見直すとともに、目標とする職業を明確にし、就職及び仕事に必要な知識・技術等の習得およびキャリア教育を重視した教育課程の編成を行っている。授業評価は毎年実施し、結果を全教員にフィードバックするとともに、次年度の授業計画に反映させ、授業内容・授業運営の改善を図っている。	アパレル企業は会社毎に業務手法が異なるため、教育課程の編成に際し、特定の企業や個人の意見に偏ることなく、広範な情報収集を行い、的確な情報・意見を選別して、学校としての統一見解を示し、広範な企業・職種に就職ができるよう課程編成を行うとともにキャリア教育を実施している。 また、インターンシップ（企業研修）を積極的に実施し、在学中に現場体験を行う体制を整備している。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	授業毎に公平かつ厳正な成績評価基準を設け明確にするるとともに、年間総合成績を基に適切な修了認定を行う。	成績評価基準は授業要項に明示し全学生に伝達し、修了認定は学則の卒業に必要な授業時数を基準に判定している。	教員によって、評価に甘め辛めの差が生じることがあるため、極力平均的な評価となるよう調整を求める場合がある。	
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	作品や習得した知識・技術を発表する場を設け、成果を把握する。	毎年、卒業・修了制作展を開催し、作品や習得した技術等の成果を外部に発表するとともに、優秀者には表彰を実施している。一部HPでも発信中。	研究成果等のプレゼンテーションは授業内で発表するケースが多く、外部に対して発信する方法を検討する余地がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業毎に公平かつ厳正な成績評価基準を設け授業要項に明示し全学生に伝達するとともに、修了認定は年間総合成績を基に、学則の「卒業に必要な授業時数」を基準として適切に判定している。また、作品や習得した技術等の成果は、卒業・修了制作展やホームページを通じて外部に発表し、優秀者には表彰を実施している。	年間総合成績において、僅かな要件不足で卒業・進級が不可となる学生に対しては、卒業・進級特別授業を行い不足していた要件を補うことで、卒業・進級できるチャンスを与えている。なお、大幅に要件不足の学生には卒業・進級特別授業への参加資格を与えていない。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	国家資格でない為、必須にはしないが、目標とする資格は教育課程において明確に位置づけ、資格取得の向上に努める。	学科の特性に合わせ、学科毎に目標とする資格を定め、関連する授業の一環として指導を行っている。	受験は必須とせず、希望者のみとしているため、受験する学生としない学生とで、学習意欲に差が生じる場合がある。	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	資格の種類・級によって、通常授業内で指導するもの、補習授業で対応するもの、自己学習を中心に質疑でフォローするものを区分。	資格毎に、授業の一環として指導するものと、更に補修で対応するもの、また、複数授業に関連する場合は自己学習後、質疑による個別フォローを行う。	複数授業に関連する資格に関しては、自己学習中心の受験となるため、受験に対し消極的になる傾向がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科の特性に合わせ、学科毎に目標とする資格を定め、関連する授業の一環として指導を行うほか、補習授業での対応や質疑による個別フォローを行うことにより、資格取得の向上に努めている。	ファッション業界の資格は国家資格でない為、受験を必須とせず、学生本人の希望に合わせた形で資格取得できるようにしているが、多くの資格については通常授業の一環として指導を行っているため、学習意欲の高い学生は多くが受験している。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	専修学校設置基準第41条の資格・要件を備えた者を教員として確保する。	資格・要件を備えることは当然であり、その上で、実務経験を重視した教員の採用を行っている。	特になし。	
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の資質向上は、教育者としての人材育成および業界情報収集の観点から重要であり、適宜実施する。	セミナー・講習会への参加、展示会視察、および、実務教員からの業界情報を共有することで資質向上を図っている。	授業時間との兼ね合いで、希望するセミナー・講習会へ、日程的に参加できない場合がある。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	小規模な学校であるが故、必要最小限のコンパクトな組織体制で、的確な教育活動を行うことを目標としている。	学科毎の特性を重視した教育に必要な組織を整備し、クラス担当（担任）を配置するとともに、授業科目毎の担当教員を定めている。	実務家教員が多く、仕事の都合で出校できないケースもあるため、予めバックアップ教員を定め、補完体制の整備に努めている。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科毎の特性を重視した教育に必要な組織を整備し、クラス担当（担任）を配置するとともに、授業科目毎の担当教員を定め、専修学校設置基準第41条の資格・要件を備えた者を教員として確保している。また、教員の資質向上は、教育者としての人材育成および業界情報収集の観点から重要であり、適宜セミナー・講習会への参加を実施している。	実務に即した実践的な教育を行うために実務家教員が多く、仕事の都合で出校できないケースもあるため、予めバックアップ教員を定め、補完体制の整備に努めている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職に関しては、学生一人ひとりの希望を重視し、マンツーマンによる個別指導を中心とした、きめ細かい就職指導を実施している。企業等とのマッチングも重視し、就職率の向上に努めている。今年度の就職率は 93%（前年 93%）となっている。</p> <p>資格取得に関しては、ファッション業界の資格は国家資格でないため、取得を推奨するものの、受験は強制でなく、学生本人の自由意思としている。よって取得率は目標としていないが、対策授業および個別フォローを行い、受験した者は合格できるようにきめ細かい指導を実施している。</p> <p>卒業生に関しては、卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるが、可能な限り卒業生の社会的評価の把握に努め、卒業時の就職先や、その後、卒業生本人から申告のあった勤務先情報等を学内で共有し、データベース化を行っている。</p>	<p>就職率 100%は理想であるが、現実においては、学生一人ひとりの資質に個人差があるため、希望する職種・企業のハードルをクリアできないことも当然起こり得る。その場合、広範な職種・企業の受験を推奨しているが、学生本人の希望により、時間を掛けて当初の目標を達成するために、就職を決めずに卒業時期を迎えるケースもある。</p> <p>資格に関しては、取得を強制していないため、学生によって学習意欲に差があり、受験のための自己学習が不足するケースも見受けられるが、極力受験者全員が合格することを目指して、担当教員が受験者へのフォローアップを行っている。</p> <p>卒業生は、卒業後の年数経過とともに所在不明者が増加するのは当然であり、ファッション業界は人事異動・転職も多く、卒業生の全員の勤務先情報を正確に把握するのは不可能である。一方、学校との連絡を絶たない卒業生も多く存在し、それらの卒業生を中心とした、卒業生同士の横の繋がりから、非公式な情報として現在の勤務状況を入手し、卒業生の社会的評価の把握に努めている。そうした中で、社会での活躍が顕著な卒業生には、在校生に向けての講話を依頼し授業に招いている。</p>

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	学生一人ひとりの希望を重視した進路指導を行い、企業等とのマッチングを配慮することで、就職率の向上を図る。	マンツーマンによる個別指導を中心とし、学生との対話による、きめ細かい対応を実施。就職率は93%（前年93%）。	大手アパレル技術職（特にパタンナー）での就職は求人数が少なく難易度が上昇しているため、広範な受験を推奨。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生一人ひとりの希望を重視し、マンツーマンによる個別指導を中心とした、きめ細かい就職指導を実施している。企業等とのマッチングも重視し、就職率の向上に努めている。今年度の就職率は93%（前年93%）となっている。	就職率100%は理想であるが、現実においては、学生一人ひとりの資質に個人差があるため、希望する職種・企業のハードルをクリアできないことも当然起こり得る。その場合、広範な職種・企業の受験を推奨しているが、学生本人の希望により、時間を掛けて当初の目標を達成するために、就職を決めずに卒業時期を迎えるケースもある。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	国家資格でないため、取得を推奨するものの、受験は強制でなく、学生本人の自由意思によって取得率は目標としない。	対策授業および個別フォローを行い、受験者したら合格できるだけの内容を指導している。	取得を強制していないため、学生によって学習意欲に温度差があり、受験のための自己学習が不足するケースがある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家資格でないため、取得を推奨するものの、受験は強制でなく、学生本人の自由意思としている。よって取得率は目標としないが、対策授業および個別フォローを行い、受験した者は合格できるように指導を実施している。	取得を強制していないため、学生によって学習意欲に差があり、受験のための自己学習が不足するケースも見受けられるが、極力全員合格することを目指して、担当教員が受験者へのフォローアップを行っている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるが、可能な限り卒業生の社会的評価の把握に努める。	卒業時の就職先や、その後、卒業生本人から申告のあった勤務先情報を学内で共有し、データベース化している。	卒業後、年数の経過とともに所在不明者が増加する。また、人事異動・転職が多いため、全員を把握するのは不可能。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるが、可能な限り卒業生の社会的評価の把握に努め、卒業時の就職先や、その後、卒業生本人から申告のあった勤務先情報等を学内で共有し、データベース化している。	卒業後、年数の経過とともに所在不明者が増加するのは当然であり、ファッション業界は人事異動・転職も多く、卒業生の全員の勤務先情報を把握するのは不可能である。一方、学校との連絡を絶たない卒業生も多く存在し、そういった卒業生の中から、社会での活躍が顕著な人物には、在校生に向けての講話を依頼し授業に招いている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職ガイダンスで就職活動の方法を解説し、数社の企業を招いて業界セミナーを実施している。また「コミュニケーションマナー」や「プレゼンテーション」の授業で、面接や自己PRのトレーニングを実施する一方、事務局に就職担当者を配置し企業との橋渡しを行うとともに、就職担当者・クラス担当（担任）を中心に全教職員が個別指導により学生をサポートし、就職支援を行っている。</p> <p>また、極力退学者を出さないために授業満足度向上に注力するとともに、遅刻・欠席等の出席状況の早期把握および教職員間での共有に努め、タイムリーにクラス担当（担任）による個人面談を行い、改善が見られない場合は、警告書等の本人・保護者宛の送付を行っている。</p> <p>学生相談に関しては、世間話程度のものであれば、軽微な悩みから重大な悩みの相談まで様々であり、特に重大な問題に関しては、クラス担当（担任）が相談を受け、必要な場合は校長が同席して面談を行う場合もある。一方、軽微な内容の相談に関しては、学生本人が相談しやすい教職員に気軽に相談できるよう、全教職員が受け入れる体制としている。</p> <p>また、学生が健康に学生生活を送れるよう、毎年健康診断を実施し、所見を本人にフィードバックしている。当然ではあるが、全校禁煙とし、受動喫煙の防止にも努めている。住環境も健康な生活を送る上で重要な要素であるため、地方出身者には、通学に便利な学生会館の紹介や入居に関する個別相談も行っている。経済的支援に関しては、全学生に対する公平性の観点から、特定の学生への学費減免は行っていないが、事情に合わせて納入期限延長や分割などによる支援を実施している。</p> <p>学生が円滑な学校生活を送る上で、保護者との連携が必要な場合もあるため、保護者の連絡先を把握し、状況に応じて電話や文書での連絡・情報交換を行っている。</p> <p>卒業生に対しては、転職の支援や、仕事上の悩み相談、専門知識・技術に関するフォローアップ指導などを行っている。</p>	<p>少人数制であるが故、個々の学生の就職活動状況や志望する職種・企業などの情報を、就職担当者・クラス担当（担任）を中心に複数の教職員が共有しており、教職員が一丸となって学生への就職支援を行っている。</p> <p>クラスの構成メンバーによって異なるが、入学した学生が卒業に至らず中途退学する比率は全学科平均して16%となっている。当然、中途退学者を出さないことが望ましいが、学生自身の怠学や進路変更・家庭の事情などにより退学するケースがあることは致し方ないことと思われる。</p> <p>少人数制でアットホームな学校であるため、多くの教職員が学生の顔と名前を覚えており、学生と教職員の距離が近い。従って、学生相談は内容によって、学生本人が相談しやすい教職員に相談を持ち掛けることが常である。</p> <p>しかし、重大な内容の相談に関しては、必ずクラス担当（担任）が窓口となり、校長まで報告が上がる体制としている。</p> <p>また、学生一人一人が快適な学生生活を送ることができるよう、必要に応じて個別面談を行うなど、きめ細かな対応を行い、可能な限りのサポートを行っている。</p> <p>遅刻・欠席の増加など、学生生活に大きな変化が見られる場合、早いタイミングで警告書を本人の他、保護者にも送付して状況を伝達し、家庭の協力も得て状況の改善を図るよう努めている。</p> <p>教職員と学生の距離が近いことから、卒業後も学校を訪れやすい雰囲気有しており、連日のように卒業生が相談等のために来校している。</p>

最終更新日付

平成30年5月31日

記載責任者

江口 崇裕

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	就職担当者を配置するとともに、教職員全員が学生を支援する体制で、就職等進路のサポートを行う。	就職担当者を中心とした教職員による個別指導や、就職ガイダンス・授業を通じて学生への就職支援を行っている。	自ら進んで活動する学生と、なかなか動き出さない学生とが存在し、後者の就活開始への誘導に難航することが多い。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職ガイダンスで就職活動の方法を解説し、数社の企業を招いて業界セミナーを実施している。また「コミュニケーションマナー」や「プレゼンテーション」の授業で、面接や自己PRのトレーニングを実施。一方、事務局に就職担当者を配置し企業との橋渡しを行うとともに、就職担当者・クラス担当（担任）を中心に全教職員が個別指導により学生をサポートし就職支援を行っている。	少人数制であるが故、個々の学生の就職活動状況や志望する職種・企業などの情報を、就職担当者・クラス担当（担任）を中心に複数の教職員が共有しており、教職員が一丸となって学生への就職支援を行っている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	極力退学者を出さないために授業満足度向上に注力するとともに、遅刻・欠席状況の早期把握・早期警告を実施。	出席状況をタイムリーに把握し、クラス担当（担任）による個人面談、警告書等の本人・保護者宛送付を行っている。	中途退学者を出さないことが望ましいが、学生自身の怠学や進路変更・家庭の事情により16%程度の退学者が発生。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
極力退学者を出さないために授業満足度向上に注力するとともに、遅刻・欠席等の出席状況の早期把握および教職員間での共有に努め、タイムリーにクラス担当（担任）による個人面談を行い、改善が見られない場合は、警告書等の本人・保護者宛の送付を行っている。	クラスの構成メンバーによって異なるが、入学した学生が卒業に至らず中途退学する比率は全学科平均して約16%となっている。当然、中途退学者を出さないことが望ましいが、学生自身の怠学や進路変更・家庭の事情などにより退学するケースがあることは致し方ないと思われる。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	クラス担当（担任）を配置し相談体制を整備すると同時に、全教職員に相談可とし、学生が相談しやすい環境を提供する。	主にクラス担当（担任）が学生相談を受けているが、学生本人が相談しやすい教職員が相談を受けることも多い。	相談内容には個人情報が含まれることも多く、関係する教職員の情報共有に際し、個人情報の取り扱いに注意が必要。	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	該当なし (留学生の管理体制の観点から、就学ビザを必要とする留学生の受け入れは行わない)	該当なし	該当なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談は、世間話程度のものもあれば、軽微な悩みから重大な悩みの相談まで様々である。特に重大な問題に関しては、クラス担当（担任）が相談を受け、必要な場合は校長も同席して面談を行う場合がある。一方、軽微な内容や世間話程度の相談に関しては、学生本人が相談しやすい教職員に気軽に相談できるよう、非常勤講師から事務局職員まで受け入れる体制にある。	少人数制でアットホームな学校であるため、多くの教職員が学生の顔と名前を覚えており、学生と教職員の距離が近い。従って、学生は相談内容によって、学生本人が相談しやすい教職員に相談を持ち掛けることが常である。しかし、重大な内容の相談に関しては、必ずクラス担当（担任）が窓口となり、校長まで報告が上がる体制としている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	全学生の公平性を保ちつつ、可能な範囲で、個別の家計の事情に合わせた支援を行うことが望ましい。	学費は全学生に対する公平性の観点から減免を行わない。ただし、納入期限延長や分割などによる支援は行っている。	経済的に厳しい学生に対する支援は必要と思われるが、学生間の公平性と、適正な財務運営という点から実現は難しい。	
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学生の健康は勉学および社会に出る上で重要な事項であるため、しっかりと健康管理ができる体制を整備する。	毎年4月に全学生を対象とした健康診断を実施し、結果を本人にフィードバックしている。また全校禁煙としている。	特になし	
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	小規模校のため独自の学生寮は保有しないが、優良な学生会館の紹介や通学の利便性・住環境等の情報提供を行う。	通学に便利な学生会館と提携し、希望者に紹介を行うとともに、入居に関する個別相談にも対応し支援を行っている。	特になし	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生の自主性を尊重し、学校として支援するに相応しい課外活動を行う場合においては協力を惜しまない。	以前フリーマーケット開催を支援していたが、現在、特に支援している課外活動はない。	支援の内容や程度、教職員の係わり方とその実現可能性など、様々な問題が絡むため、支援可否の審査が必要となる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が健康に学生生活を送れるよう、毎年健康診断を実施し、所見を本人にフィードバックしている。また、全校禁煙とし、受動喫煙の防止に努めている。住環境も健康な生活を送る上で重要な要素であるため、地方出身者には、通学に便利な学生会館の紹介や入居に関する個別相談も行っている。経済的支援に関しては、全学生に対する公平性の観点から学費減免は行っていないが、事情に合わせて納入期限延長や分割などによる支援を実施している。</p>	<p>少人数制の学校であるため、学生一人一人が快適な学生生活を送ることができるよう、必要に応じて個別面談を行うなど、きめ細かな対応を行い、可能な限りのサポートを行っている。</p>

最終更新日付

平成30年5月31日

記載責任者

江口 崇裕

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	学生が円滑な学校生活を送るために、常時、保護者と情報交換を行うことができるよう、連携体制の構築が必要。	身上調査書の提出により、保護者の連絡先を把握し、状況に応じて、電話や文書での連絡・情報交換を行っている。	各家庭の状況により、連携の密度・効果に差が生じることがある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生が円滑な学校生活を送るために、常時、保護者と情報交換を行うことができるよう、連携体制を構築することが必要であり、本校に置いては身上調査書により保護者の連絡先を把握し、状況に応じて電話や文書での連絡・情報交換を行っている。	遅刻・欠席の増加など、学生生活に大きな変化が見られる場合、早いタイミングで警告書を本人の他、保護者にも送付して状況を伝達し、家庭の協力も得て状況の改善を図るよう努めている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生は学校の一員であるとの認識の上、常に受け入れ態勢を整え、可能な限り協力・支援を行うよう全教職員に徹底。	随時、転職の支援や、仕事上の悩み相談、専門知識・技術に関するフォローアップ指導などを行っている。	卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるため、どうしても学校を訪れる卒業生は限られる。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	卒業後の再教育プログラムは、新たなコースの設置が必要であり、現状では対応が難しい。	該当なし	該当なし	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	高校卒業者と社会人とは学習到達目標が異なるため、別科を設ける必要があり、現状では対応が難しい。	該当なし	該当なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生は学校の一員であるとの認識から、常に受け入れられる態勢を整え、可能な限り協力・支援を行うよう全教職員に徹底している。卒業生個々人の考えや置かれた状況により学校との関係性は異なるため、学校を訪れる卒業生は限られるが、訪問してきた卒業生に対し、転職の支援や、仕事上の悩み相談、専門知識・技術に関するフォローアップ指導などを行っている。	少人数制でアットホームな学校であるため、教職員と学生との繋がりが強く、卒業後も学校を訪れやすい雰囲気有しており、連日のように卒業生が相談等のために来校している。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育上必要な施設・設備・教育用具等を整備し、クリエイティブな空間の提供と実習等作業の円滑な運営に努めるため、定期的に校内のメンテナンスを実施し、学生 1 人 1 台の PC・マシン・ボディなどを用意し、快適な学習環境を提供している。また、近年 PC を使用する授業が増加傾向にあり、PC 教室以外の教室でもノート PC が利用できるように校内無線 LAN を設置している。</p> <p>就職の判断材料となる学外実習、インターンシップとして、デザイナー、スタイリスト等の職場体験、衣裳会社（テレビ局）、アパレル企業での職場実習、東京コレクションでのフィッター体験などを行っている。</p> <p>また、見聞を広め感性を高めるために欧州研修旅行を実施（今年度は一時休止）している。</p> <p>防災・安全管理に関しては、建築基準法に基づく建築設備定期検査を実施するとともに、消防計画に基づく自衛消防隊を組織し、年二回の消防用設備等の点検と年一回の訓練を実施している。また、職員による定期的な校内巡回および防犯カメラによる監視により、防犯および火災予防に努めている。</p>	<p>校舎の設計は著名建築家によるもので、建設当時、ファッションを学ぶにふさわしいクリエイティブな空間をコンセプトに設計されたものである。</p> <p>校外研修として、ファッションクリエイター専攻科は、織物工場の見学および現地での実習を実施しており、卒業・修了作品のオリジナル素材作りに効果を上げている。</p> <p>防災・安全管理に関しては、教職員の多くが、学生の顔と名前を認識しているため、部外者が校内に侵入した場合、短時間のうちに尋問を行うなど、対処することができる。また交番が徒歩 1 分の距離にあるため、非常時には警察による迅速な対応が可能である。</p>

最終更新日付	平成 30 年 5 月 31 日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	教育上必要な施設・設備・教育用具等を整備し、クリエイティブな空間の提供と実習等作業の円滑な運営に努める。	定期的に校内のメンテナンスを実施。学生 1 人 1 台の PC・マシン・ボディなど、快適な学習環境を提供している。	PC を使用する授業が増加傾向にあり、PC 教室のみでの対応が難しくなりつつあるため、校内無線 LAN を設置。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育上必要な施設・設備・教育用具等を整備し、クリエイティブな空間の提供と実習等作業の円滑な運営に努めるため、定期的に校内のメンテナンスを実施し、学生 1 人 1 台の PC・マシン・ボディなどを用意し、快適な学習環境を提供している。近年 PC を使用する授業が増加傾向にあり、PC 教室以外の教室でもノート PC が利用できるように校内無線 LAN を設置している。	校舎の設計は著名建築家によるもので、建設当時、ファッションを学ぶにふさわしいクリエイティブな空間をコンセプトに設計されたものである。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	就職の判断材料となる学外実習、インターンシップを実施。また、見聞を広め感性を高めるために海外研修を実施する。	デザイナー、スタイリスト、衣裳会社等のインターンシップの他、アパレル企業での学外実習や欧州研修旅行を実施。	ヨーロッパでのテロ発生以降、欧州研修旅行の希望者が減少し、一時休止している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職の判断材料となる学外実習、インターンシップとして、デザイナー、パタンナー、スタイリスト等の職場体験、衣裳会社（テレビ局）、アパレル企業での職場実習、東京コレクションでのフィッター体験などを行っている。また、見聞を広め感性を高めるために欧州研修旅行を実施（今年度は休止）している。	ファッションクリエイター専攻科は、校外研修として織物工場の見学および現地での実習を実施しており、卒業・修了作品のオリジナル素材作りに効果を上げている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	消防計画に基づき、自衛消防隊を組織するとともに、消防用設備等の定期点検および訓練を定期的実施する。	年二回の消防用設備等の点検と年一回の訓練を実施し、設備に不具合があった場合は迅速に改良している。	訓練は、授業運営および立地等の状況から、学生の参加が困難であるため職員で実施。非常時には連絡・誘導係を担う。	
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	校舎（建築設備）の保全および防犯・火災の予防を徹底するべく、安全管理体制を整備し適切な運用を行う。	建築設備定期検査を実施。職員による校内巡回および防犯カメラによる監視により、防犯および火災予防に努めている。	防災地図（広域避難場所）を校内に掲示しているが、記憶している学生は少数。オリエンテーション等での周知が必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
建築基準法に基づく建築設備定期検査を実施するとともに、消防計画に基づき自衛消防隊を組織し、年二回の消防用設備等の点検と年一回の訓練を実施している。また、職員による定期的な校内巡回および防犯カメラによる監視により、防犯および火災予防に努めている。	教職員の多くが、学生の顔と名前を認識しているため、部外者が校内に侵入した場合、短時間のうちに尋問を行うなど、対処することができる。また交番が徒歩1分の距離にあるため、非常時には警察による迅速な対応が可能である。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集に関しては、ホームページを充実するとともに、専門学校への進学が多い全国の高校への学校案内の送付、および入学実績が多い首都圏の高校への訪問・面会を実施し、情報提供を行っている。</p> <p>また、進学情報サイト・進学情報誌を利用した広報活動、および、学校説明会・体験入学・学校見学による学校概要の認知に努めている。</p> <p>入学選考に関しては、出願時に入学資格の確認を行い、書類審査および必要に応じて面接を実施し、本人の学習意欲と、本校での学習により成長が見込まれるかという観点から、入学に適格か否かの選考を実施している。</p> <p>学納金は経費内容に対応した算定を行い決定しており、入学前に入学辞退の申し出があった時は、事情を鑑み、原則として入学金を除く授業料等を返還している。</p>	<p>入学者は首都圏（一都三県）を中心に日本全国に及ぶため、高校訪問できる学校数が限られ、高校への学校案内の送付による情報提供および推薦依頼を実施している。</p> <p>調査書等の記載事項や入学選考時に把握した特記事項は、クラス担当（担任）および関係する教員にフィードバックし、授業運営に活かしている。</p>

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	高等学校等接続する教育機関に対し、適切な情報提供を行い、入学対象者の認知度向上に努める。	ホームページを充実するとともに、全国の高校への学校案内の送付および首都圏の高校への訪問・面談を実施。	小規模校であるため、訪問できる高校数が限られる。未訪問校は学校案内送付で対応しているが、訪問先増が必要。	
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	入学者を確保するために、適切かつ効果的な学生募集活動を実施する。	ネット媒体・紙媒体による広報活動および、学校説明会・体験入学・学校見学により学校概要の認知に努めている。	時代の流れに即した広報活動が求められ、今後は SNS の活用が必須になる。試行錯誤しつつ取り組むことが肝要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ホームページを充実するとともに、専門学校への進学が多い全国の高校への学校案内の送付、および入学実績が多い首都圏の高校への訪問・面会を実施している。 また、進学情報サイト・進学情報誌を利用した広報活動、および、学校説明会・体験入学・学校見学による学校概要の認知に努めている。	小規模校であるため、訪問できる高校数が限られる。未訪問校は学校案内送付で対応しているが、今後、訪問先を増やしていく必要がある。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	学則上の入学資格および選考方法を募集要項、その他広報媒体に明記し、入学選考時に適切な運用を行う。	出願時に入学資格の確認を行い、書類審査および必要に応じて面接を実施し、入学に適格か否かの選考を実施している。	特になし	
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学者の傾向・特徴等を把握し、クラス担当（担任）を中心とした教員と、その情報の共有を図り、授業運営に反映させる。	入学選考時に把握した特記事項は、面接シートに記し、クラス担当（担任）および関係する教員にフィードバックし、授業運営に活かしている。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
出願時に入学資格の確認を行い、書類審査および必要に応じて面接を実施し、入学に適格か否かの選考を実施している。 また、調査書等の記載事項や入学選考時に把握した特記事項は、クラス担当（担任）および関係する教員にフィードバックし、授業運営に活かしている。	入学者の状況を把握した上で、授業レベルや進行スピードの調整ができる授業科目に関しては、調整を行う場合がある。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	経費内容に対応した学納金の算定を行い、学費を決定する。	「学費変更の積算基礎」に基づき、経費内容に対応した学納金の算定を行い、学費を決定している。	家計動向を勘案し学費上昇を最小限に留めているが、18歳人口の減少による入学者減少傾向に伴い見直しが必要。	
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	入学辞退者に対し、授業料等について適切な取扱いを行う。	入学前に入学辞退の申し出があった時は、事情を勘案し、原則として入学金を除く授業料等を返還している。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「学費変更の積算基礎」に基づき、経費内容に対応した学納金の算定を行い、学費を決定している。 また、入学前に入学辞退の申し出があった時は、事情を鑑み、原則として入学金を除く授業料等を返還している。	特になし

最終更新日付

平成30年5月31日

記載責任者

江口 崇裕

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>借入金が無く与信余力が充分にあるので、中長期的な財務基盤は安定している。また決算毎に、主要財務数値に関し公認会計士との意見交換を行い、次年度以降の計画・予算策定時の参考材料としている。</p> <p>中期計画に関しては、教育目標との整合性を図り、重要な変更を行う場合は中期計画を策定、重要な変更を計画しない場合は、中期的なシナリオを考慮した上で、次年度計画・予算のみを策定している。</p> <p>監査に関しては、監事 2 名（内 1 名は公認会計士）を置き、決算後 2 月以内に適切に監査を実施し、理事会に監査報告書を提出している。</p>	<p>特になし</p>

最終更新日付	平成 30 年 5 月 31 日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	借入金無く、与信余力が充分にあるので、中長期的な財務基盤は安定している。	中長期的なシナリオを想定し、財務基盤の安定化に努めている。	18歳人口の減少等により、学生数減少傾向が続く中、将来に向けての対策が必要になりつつある。	
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	決算において、主要財務数値を把握・分析し、学校経営の指針とする。	決算毎に、主要財務数値に関し公認会計士との意見交換を行い、次年度以降の計画・予算策定時の参考材料としている。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
借入金無く、与信余力が充分にあるので、中長期的な財務基盤は安定している。 また決算毎に、主要財務数値に関し公認会計士との意見交換を行い、次年度以降の計画・予算策定時の参考材料としている。	18歳人口の減少等により、学生数減少傾向が続く中、将来に向けての対策が必要になりつつある。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	教育目標との整合性を図り、中期的なシナリオを考慮した上で、次年度計画・予算を策定する。	重要な変更を行う場合は中期計画を策定、重要な変更を計画しない場合は、次年度計画・予算のみを策定している。	近年、環境要因の変化が激しく、入学者数の予測が困難な状況にあり、中長期計画を策定しにくい。	
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算及び計画に基づき、業務運営を行うとともに、適正な執行管理を行う。	ルーティーン業務は予算・計画に織り込み済のため結果報告とし、突発的な修繕等の実施は都度管理者決裁のうえ実行。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育目標との整合性を図り、重要な変更を行う場合は中期計画を策定、重要な変更を計画しない場合は、中期的なシナリオを考慮した上で、次年度計画・予算のみを策定している。 また、ルーティーン業務は予算・計画に織り込み済のため管理者への結果報告（伝票回付）とし、突発的な修繕等の実施は都度管理者決裁のうえ実行。	組織が小規模であるため、執行管理に要する時間が短く、機動的な判断が可能。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施。	監事2名（内1名は公認会計士）を置き、決算後2月以内に適切に監査を実施し、理事会に監査報告書を提出している。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
監事2名（内1名は公認会計士）を置き、決算後2月以内に適切に監査を実施し、理事会に監査報告書を提出している。	特になし

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用する。	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備するとともに、事務所内に保管し、常時閲覧可能としている。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備するとともに、事務所内に保管し、常時閲覧可能としている。	特になし

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令や専修学校設置基準を遵守し学校運営を行っている。</p> <p>個人情報保護に関しては、プライバシーポリシー（ホームページに記載）を策定しており、個人情報書類の施錠保管、校外持出し禁止、シュレッダー廃棄等を、会議等で教職員に周知徹底するとともに、PC・サーバーのセキュリティを強化し、アクセス権限の管理を行っている。</p> <p>自己点検・評価は、毎年実施し、PDCA サイクルにより業務運営に反映させている。自己点検・評価の結果は、ホームページにて公開中。</p> <p>教育情報に関しては、入学対象者および就職先企業等に教育内容を周知するために、ホームページで全学科の授業要項（シラバス）を公開する等、ホームページを中心に、学校案内、学校説明会、SNSなどで情報公開を実施している。</p>	<p>特になし</p>

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	法令や専修学校設置基準を遵守し学校運営を行う。	法令や専修学校設置基準を遵守し学校運営を行っている。	特になし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令や専修学校設置基準を遵守し学校運営を行っている。	特になし

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報保護法を遵守し、プライバシーポリシーを策定して教職員に徹底する。	個人情報書類の施錠保管、校外持出し禁止、シュレッダー廃棄等を周知徹底。PC・サーバーのセキュリティー強化。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護に関しプライバシーポリシーを策定して、会議等で教職員に徹底しており、個人情報書類の施錠保管、校外持出し禁止、シュレッダー廃棄等を周知徹底するとともに、PC・サーバーのセキュリティーを強化し、アクセス権限の管理を行っている。	特になし

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	毎年、自己点検・評価を実施し、PDCA サイクルにより業務運営に反映させる。	小規模校であるが故、校長を中心に、職員が連携して自己点検・評価を実施している。	自己点検・評価を実施するためのマンパワー確保が課題。	
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	自己点検・評価の結果を公表する。	自己点検・評価の結果をホームページにて公開中。	特になし	
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	現状、該当なし	現状、該当なし	現状、該当なし	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	現状、該当なし	現状、該当なし	現状、該当なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、自己点検・評価を実施し、PDCA サイクルにより業務運営に反映させている。 自己点検・評価の結果は、ホームページにて公開中。	特になし

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	入学対象者および就職先企業等に教育内容を周知するために、教育情報の公開を行う。	ホームページで全学科の授業要項を公開する等、ホームページを中心に、学校案内、学校説明会、SNSなどで公開。	情報発信ツールが多様化しているため、それぞれのツールの利点を理解し、効果的な使い分けが必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学対象者および就職先企業等に教育内容を周知するために、ホームページで全学科の授業要項（シラバス）を公開する等、ホームページを中心に、学校案内、学校説明会、SNSなどで教育情報の公開を行っている。	特になし

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本来の教育活動に支障のない範囲で、社会貢献・地域貢献を行うことを方針とする中、夏休み期間に、港区が主催する、地元の小学生を対象とした共育事業に協力し、子供たちへのファッション啓蒙活動を実施。</p> <p>学生のボランティア活動については奨励するものの、現状、学校としての取り組みはなく、個々の学生が取り組む活動がある場合において、学業に支障がない範囲で協力・支援を行っている。</p>	<p>共育事業は、教員・卒業生・在校生が協力して取り組むとともに、小学生の子供たちと交流するということで、在校生にとって普段の授業では経験し得ない、良い体験となっている。</p>

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	本来の教育活動に支障のない範囲で、社会貢献・地域貢献を行う。	港区が主催する、地元の小学生を対象とした共育事業に協力し、子供たちへのファッション啓蒙活動を実施。	特になし	
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	該当なし	該当なし	該当なし	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本来の教育活動に支障のない範囲で、社会貢献・地域貢献を行うことを方針とする中、夏休み期間に、港区が主催する、地元の小学生を対象とした共育事業に協力し、子供たちへのファッション啓蒙活動を実施。	共育事業は、教員・卒業生・在校生が協力して取り組むとともに、小学生の子供たちと交流するということで、在校生にとって普段の授業では経験し得ない、良い体験となっている。

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	学生のボランティア活動を奨励する。	現状、学校としての取り組みはないが、個々の学生が取り組む活動については、学業に支障がない範囲で協力・支援する。	該当なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生のボランティア活動を奨励するが、現状、学校としての取り組みはなく、個々の学生が取り組む活動がある場合においては、学業に支障がない範囲で協力・支援を行う。	特になし

最終更新日付	平成30年5月31日	記載責任者	江口 崇裕
--------	------------	-------	-------